

2018年5月30日

一般質問 旦保立子

小鳥に声をかけてみた  
小鳥は不思議そうに首をかしげた。

わからないから  
わからないと  
素直にかしげた  
あれは  
自然な、首のひねり  
てらわない美しい疑問符のかたち。

時に  
風の如く  
耳もとで鳴る  
意味不明な訪れに  
私もまた  
素直にかしぐ、小鳥の首でありたい。                      吉野弘「素直な疑問符」

まず、お聞きします。慶讃法要施策の根幹となる方針の一つに「本願念仏に生きる人の誕生と場の創造」があげられています。この方針について、5人の参務方に各担当部署の視点からの見解をお聞かせください。

次に、宗門が考える「開教」とはどのような願いのもとに展開されようとしているのか。そして、宗門立の開教寺院と、自ら開教を志す方々との公平性、平等性において、物心両面でどのような具体的支援を考えられているのか。具体的には、開教を志すも、借金を抱え、何年も法人設立に足踏みをされている方へのサポートはどのように考えられているのでしょうか。そして、現在、開所式を終えられた千葉県の本願寺市川行徳真宗会館の活動内容の進捗状況と、これからの展望をお知らせください。さらには、第三第四の宗門立開教寺院を考えられておられるのでしょうか。また、人口の流入流出を見据え、首都圏でのこれからの開教の必要性についての見解をお尋ねいたします。

私が預かっている寺は開教41年を迎えました。宗門存立の根幹をなす同朋会運動によって、真宗不毛の地・埼玉と言われていた頃に生み出された寺です。当然のことながら、宗門からは、支援はなく、ただただ、有縁の方々の援けを借りて土地建物を準備し、必死の思いで毎月の生活を立て、寺を維持管理し、聞法道場としてここまでようやく来ました。約40年前後前から、首都圏では開教を目指す方々が多くなり、東京教区に開教者会が誕生しました。そして、寺院設立のため、悪戦苦闘の歩みが始まります。まず、土地はどこに、建物の規模は、利便性はと、東奔西走・孤軍奮闘の毎日は続きます。経費捻出のため、心痛む思いをしながら周辺の葬儀社を回り、法務を向けてもらうよう頼み込み、さらには墓地を開き、それでもなお、経費には追い付かず、その状態を何年か続けることとなります。お荘厳が整うまで、それぞれの開教寺院の設立過程のご苦勞は言葉で尽くすことはできません。こうゆう状況を宗門の皆さん方は承知されているでしょうか。まさに、事は机上ではなく現場で起こっているのです。その意味で、京都と東京の温度差は否めません。開教の促進はコンプライアンスもさりながら、その過程において丁寧な現場周辺の寺院、開教者への苦悩を含めたコンセンサスは欠かせません。さらには、首都圏の人口の動向を見る時、開教に関する諮問委員会などを立ち上げ、現場に根ざした開教施策・制度が展開されることを望まずにおれません。

次に、2012年5月『真宗』誌に公開された「宗祖親鸞聖人750回御遠忌の点検総括と宗門の展望に関する課題提起」についてお聞きいたします。

750回御遠忌円成後の課題提起という形の総括は、人間回復の一道である宗門の歩みを確かめ、かつ将来を展望するものでなければならない、と表明されています。まさに、これから迎えようとする慶讃法要への課題提起でもあると思います。提起されて今日まで7年間、各地各所において語り合い、談合の課題とされたのかどうか。提起されている教学教化、制度機構、宗門財政についてどのような歩みをされてきたのかをお尋ねいたします。

次に、総会所の建物解体、さら地になった今、東本願寺の100年に及ぶ歴史を「老朽化」と耐震補強にかかるお金がないという理由から、やすやすと毀滅させたことに対して、どのような思いを抱かれておられるかお聞かせください。

大垣市の五藤寺社建築のブログには壊した時の状況が説明されてありました。「明治の建物でもしっかり作ってありましたので、傷みもくるいも少なかったです」と解体機械の前になんとも悲しい姿の総会所の写真説明がありました。

総会所建物は、本廟を支え続けた門徒僧俗の懇志の宗門歴史財産であり、しっかりと歴史学的・建築学的検証を行い、どうしてもそれが困難であれば、移

築解体の方向性も慚愧の思いで考えねばならない、と 2016 年 10 月、11 月号の『真宗』誌に同朋大学教授の安藤弥氏が総会所閉所式で話されたことが掲載されました。にもかかわらず、十分な時間をかけた調査の形跡もないまま、無残にも取り壊されてしまいました。友からのメールです。総会所解体は法難です。もうこんな宗門には協力できない、と。早計過ぎる総会所解体は人の心をも壊してしまったと言わざるを得ません。

以上、4 点の小鳥の首からの質問に、心からの熱き答弁を期待して終わります。